

令和7年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間 (最終))

呉中央中学校区 校番13 呉中央中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	<p>④</p> <p>生ききる根っこを育てる「豊かな学び」の創造</p>	<p>④</p> <p>「主体的、対話的で深い学び」の実現と基礎・基本の定着を図る。</p>	<p>授業の中で「思考し表現している」という項目に肯定的な回答をした生徒の割合は93%で、目標の90%を上回っている。上半期と同様の結果となっている。</p> <p>総合的な学習の時間についての「総合的な学習の時間の学習を通して、身近な人や地域、社会のために役立つことができた。」というアンケート項目に対する肯定的な回答の割合は96%で、目標値の85%を上回っている。上半期が91%であったので上半期より高い結果となっている。</p> <p>「学力調査・定期試験(国・数・英)における通過率30%以上の生徒の割合」は87%で、目標値の90%を下回っている。上半期よりも授業内容が難しくなり、理解度が低い生徒が増えてきている。</p> <p>「各学年の家庭学習目標時間の達成率の割合」は64%で、目標の65%を下回った。上半期が66%であったので上半期より低い結果となっている。</p>	<p>子園授業スタイルに基づいた探究的な活動や思考過程の工夫による授業改善をさらに進めるため、授業で思考・表現する場面を意図的に設定していく。</p> <p>学園フェスタに向けての取組において、探究的な活動を行うことができた。今後も、各教科等の授業において、探究的な活動や思考を促す発問を積極的に取り入れていく。</p> <p>今後も、各教科の授業や家庭学習において、Qubanaを効果的に活用し、各自の学力に応じた最適な学習ができるよう支援していきたい。</p> <p>今後も、呉中央スタンダードや試験計画表等を活用して、教師が生徒の家庭学習の進捗を把握し、適切な指導を行っている。</p>
**	<p>④</p> <p>生ききる根っこを育てる「豊かな生き方」の創造</p>	<p>④</p> <p>「自己指導能力」を高める。</p>	<p>「あいさつ」「返事」「時間」「掃除」に関するアンケートについて、肯定的な回答をした生徒の割合は、それぞれ94.3%、99.1%、96.2%、96.7%であり、全体の平均では約97%であった。目標値が95%なので目標を上回る結果となった。4つの項目のうち、「あいさつ」の項目のみが目標値を下回っているが、1学期末の結果よりも1.6ポイント上昇している。前回みられた学年間の大きな差も縮小していることが見てとれる。生徒とのつながりを深めていく為のあらゆる方策の効果が、少しずつ生徒に表れ始めている。</p> <p>「自分には良いところがある」と思っている生徒の割合は85.7%で、目標値の90%を下回っているものの、こちらも1学期末の結果に対して1.6ポイントの上昇をみせている。2学期に集中していた多くの行事を通して、生徒の自尊感情が高まりを見せているといえる。</p>	<p>前回の中間報告でまとめた改善策が功を奏したといえる状況なので、基本的には方針を引き継いでいく。具体的には、あいさつに力点を置き、生徒の主体性を大切にする事で、自己指導能力の向上を図ることを継続する。さらに、生徒と教師の信頼関係構築や集団づくりに努め、生徒が安心して過ごせる環境をつくる。個人面談の機会を確保する取り組みも継続し、生徒の情報を細やかに受け取ることで、生徒とのつながりをより深めていく。2学期の各行事が効果を上げたが、3学期は大きな行事が少なくなるので、異学年交流などを積極的に行い、生徒が活躍できる場を増やしていく。</p>
*	<p>④</p> <p>生ききる根っこを育てる「しなやかな体」の育成</p>	<p>④</p> <p>基本的な生活習慣の定着と体力・運動能力の向上を図る。</p>	<p>三点固定に関して、1学期末の調査より5.5ポイントの向上となり、目標値を上回った。部活動や塾・習い事といった放課後の時間の使い方に慣れてきて、生活リズムが掴めてきた結果、早寝早起きの環境が整ったと考えられる。また、メディアコントロールに関して指導を続けたことで、少しずつメディア依存の状態から脱しつつある生徒が増えてきた。</p> <p>8年生の新体力テストの結果、昨年度より向上した生徒の割合は男子が88%で女子が73%、男女で80%だった。男子は目標の80%より高かったが、女子は目標より下回った。運動する機会の少ない生徒の体力向上が課題と考える。</p>	<p>1学期から大きな向上をみせているので、呉中央スタンダードに記入する三点固定に関する記述を担当が細やかにチェックし、そこにコメントを入れる取り組みを継続して行っていく。養護教諭によるメディアコントロールに関する健康相談も効果を上げているので、継続して更なる改善を目指す。</p> <p>体育の授業導入部分での体力づくり運動を取り入れる。昼休憩ボールの貸し出しを引き続き行う。2学期に、運動する機会を増やすために、クラスマッチ等を実施した。</p>
業務改善	<p>④</p> <p>業務改善を進め、元気で明るい職場を実現する</p>	<p>④</p> <p>・生徒と向き合う時間を確保する。 ・長時間勤務の縮減を図る。</p>	<p>生徒と向き合う時間が確保については、前回の課題を受け、より意図的な生徒理解と業務の効率化に努めた結果、77%と向上した。スタンダードの活用や日々の観察を通じ、生徒の悩みや困りごとを早期にキャッチ・対応する体制が整い、「生徒としっかり関わっている」という手応えを持てたことが結果に表れた。勤務時間については、行事等により一斉退校日の遵守が困難な時期もあったが、各教職員が「効率的に仕事を進める」という意識で取り組み、時間外勤務が月45時間以下の教職員の割合は70%に達し、目標を達成することができた。</p>	<p>生徒の悩みや困りごとを組織的に共有し、一人で抱え込まずチームで支える体制を一層強化する。多忙期でも生徒と向き合う時間の質を確保できるよう、ICT活用や会議の短縮等による業務効率化を継続し、教育活動の充実を図る。また退校予定時間の設定や業務分担の適正化、繁忙期と平常時の業務の波を平準化を図り、教職員の心身の健康を維持と生徒と丁寧に関わり続けられる勤務環境の構築を目指す。</p>
いじめの防止	<p>④</p> <p>安心・安全な学校生活の確保と信頼される学校づくりの実現</p>	<p>④</p> <p>いじめを絶対に許さない生徒の育成を図る。</p>	<p>「いじめは絶対に許されない行為であると思う」という項目について、「思わない」と回答した生徒が一人いたが、前回調査よりも改善している。「思わない」と回答した生徒は、「場合による」と考えている。</p>	<p>「いじめ撲滅キャンペーン」や「道徳の授業」での集中的な取り組みと、普段からいじめを許さない雰囲気づくりや語りかけを並行して行ってきたことで、前回からの改善がみられたので、引き続きそれらを地道に続けていく。「思わない」と回答した生徒に関して、固有の事情が背景にありそうなので、少しずつゆっくりでも心を解きほぐしていきたい。</p>